

2本針・3／4本糸（差動調節付き）
オーバーロックミシン

MO-2900

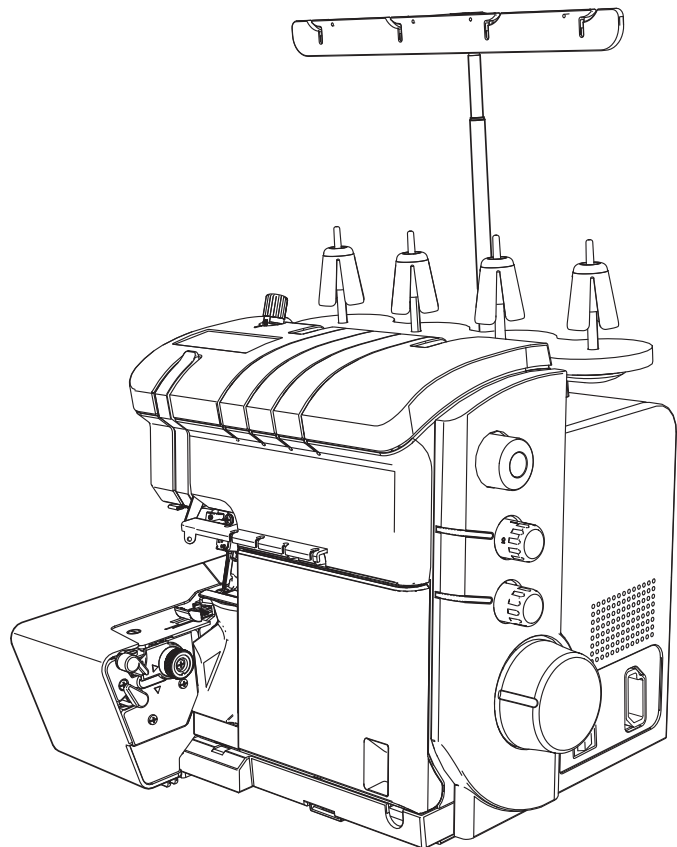
取扱説明書



注意

安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれるように保管してください。

JA



この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

正常な使用状態以外での故障（説明書や本体貼り付けラベル等の注意書きに従わず使用された場合の故障）や消耗品（針・メス等）については保証対象外となります。保証については別途保証書の内容を確認してください。

製品改良のため、本体の色・デザイン・仕様など予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

マニュアルは、改善のため変更することがあります。



上記のマニュアルは、インターネットで最新版を公開しています。

https://www.juki.co.jp/household_ja/vc-files/doc/pdf/MO-2900_manual.pdf







安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵文字の意味は次のとおりです。

	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります		手などへの傷害の危険があります
	してはいけないこと		分解、改造をしないでください		針の下に指を入れないでください		油などを注がないでください
	必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください				

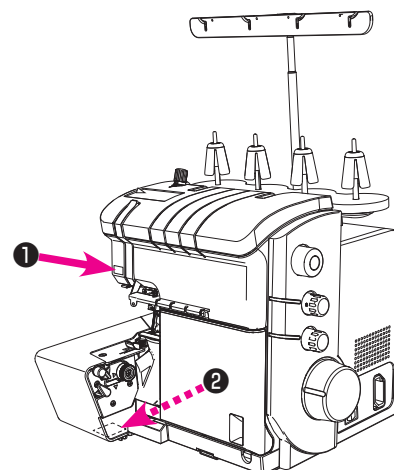
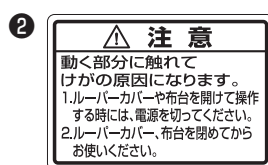
警告ラベルについて

ミシン本体には下記の警告ラベルが表示されています。

警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。

また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

万ラベルがはがれていたり、読み取れなくなった場合は速やかに販売店にご連絡ください。








このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。






このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。













This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.




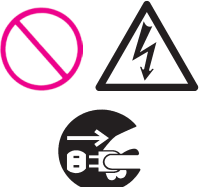







警告

	一般家庭用交流電源 100V の電圧以外では、絶対に使用しないでください。
	下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none">● ミシンのそばを離れるとき。● ミシンをご使用になったあと。● ミシンのご使用中に停電したとき。● ミシンをお手入れするとき。● ミシンを移動させるとき。● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。● 雷が鳴りはじめたとき。
	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロン、火の消えていないたばこ、ろうそくなど火の気のあるもののそばや温度の高いところでは使用しないでください。 ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。 ミシンの使用温度は 5℃～ 40℃です。
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。

注意

	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	電源プラグやフットコントローラーを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

	<p>電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>ミシン側面および背面にある換気口をふさがないようにください。換気口は必ず壁から 30 cm 以上離して使用し、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。</p>
	<p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。</p>
	<p>以下の場所に設置、保管しないでください。故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 温度が著しく高くなる場所 • 温度が著しく低くなる場所 • 急激に温度が変化する場所 • 湿気、湯気の多い場所 • 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 • 野外や直射日光の当たる場所 • ほこり、油煙の多い場所
	<p>フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが、故障の原因となります。</p>
	<p>付属のフットコントローラーは本機種専用となります。付属以外のフットコントローラーはご使用にならないでください。</p>
	<p>お客様ご自身での分解、改造はしないでください。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は販売店にご依頼ください。</p>
	<p>ミシンを操作するときはカバー類を閉じてください。けがの原因となります。</p>
	<p>ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。けがの原因となります。</p>
	<p>曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。</p>
	<p>縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが、針折れの原因になります。</p>
	<p>お子様の玩具としては使用しないでください。お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してご使用してください。</p>

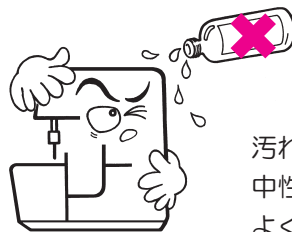
	<p>下記のことを行うときは、電源スイッチを切り取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。 ● 針糸をセットするとき。
	<p>取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>
	<p>ミシンやフットコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 煙が出ている。 ● 正常に作動しないとき。 ● 落下などにより破損したとき。 ● 水に濡れたとき。 ● プラグ類が破損、劣化したとき。 ● 異常な臭い、音がするとき。 ● 異物が入ったとき。
	<p>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。 万が一異物が入った場合はミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>針の下に指などを入れないでください。また、作業時メス、ルーパーなど鋭利な部分には触れないでください。</p>
	<p>ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。</p>
	<p>ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体は、必ずハンドル（取っ手）を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因になります。</p>
	<p>けが、メスの破損、針折れの原因になりますので、まち針を布地に刺したまま縫わないでください。その他、布地や糸以外のものをメスで切断しないでください。</p>
	<p>布地と糸と針の組み合わせは、取扱説明書の記載に従って適切な組み合わせでご使用ください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（11番以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。</p>
	<p>針糸、ルーパー糸などに関する操作については取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取扱を誤ると縫製中に糸がらみなどを発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。</p>

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シンナーなどの溶剤でふかないでください。

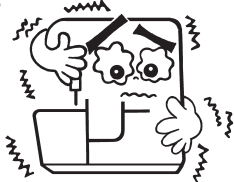


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンは半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。



※ ミシンの使用温度は5℃～40℃です。直射日光の当たるところや、ストーブ、ろうそくなど火の気のあるものそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。



QRコードから操作サポートビデオにアクセスすることができます。

https://www.youtube.com/playlist?list=PL4P7rfeya4jlsbu6_SMkPvDqnxME_LAcM

もくじ

安全にご使用していただくために.....	1
各部のなまえ.....	7
付属品.....	7

動かす前の準備

糸立装置を取り付ける.....	8
糸ゴマのセット方法.....	8

各部の基本操作

コントローラーを取り付ける.....	9
電源の入れ方.....	9
ルーパークバーの開け方／閉め方.....	9
はずみ車（プリー）の使い方.....	9
押え上げレバーの使い方.....	10
押えの交換.....	10
押えの使い方.....	10
押え圧を調節する.....	10
布を切らずに縫うとき（上メスの解除）.....	10
かがり縫い・巻き縫いの切替え.....	11
布地・糸・ミシン針対応表.....	11
針の交換.....	11

糸のかけ方

糸かけの準備.....	12
下ルーパーク（赤印）をかける.....	13
上ルーパーク（青印）をかける.....	14
右針糸（緑印）をかける.....	15
左針糸（薄茶印）をかける.....	16
ルーパーク通し具の使い方.....	17

ぬってみましょう

試し縫いをする.....	17
縫うときの目安.....	18

縫い目の種類

2本針4本糸ロック.....	18
1本針3本糸ロック.....	19
巻き縫い（全巻き縫い／細ロック縫い）.....	20

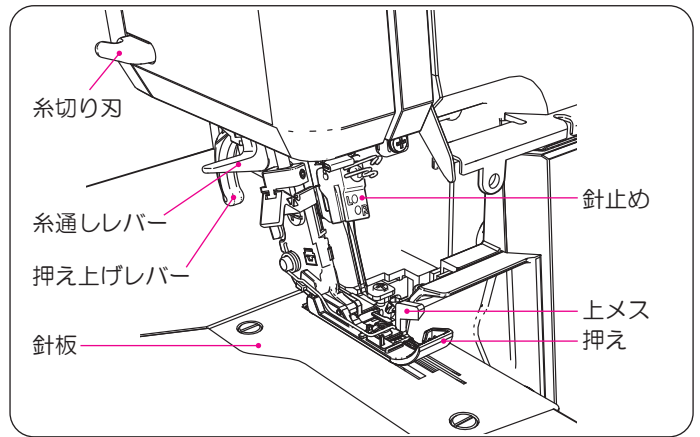
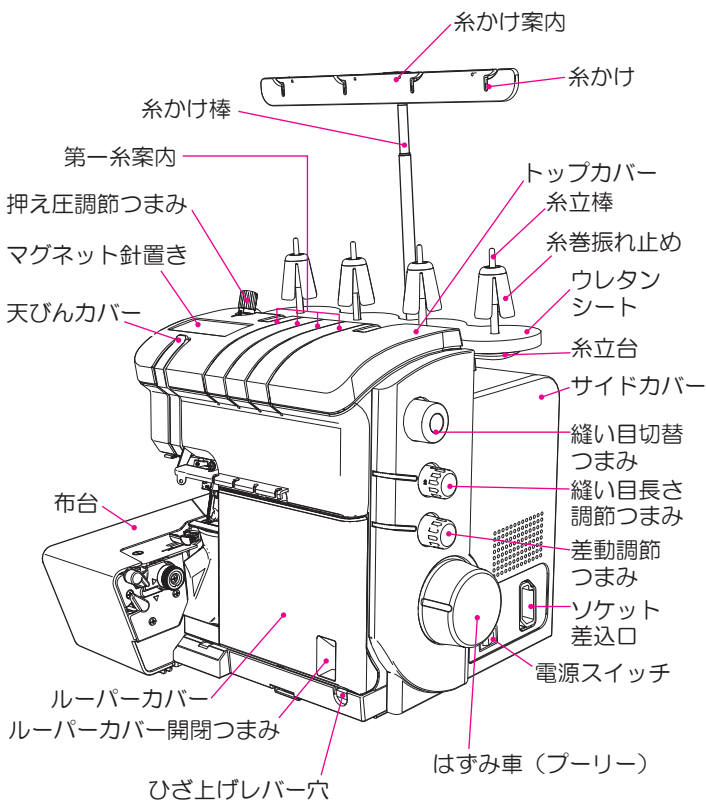
各種の調整

縫い目長さを調節する.....	21
かがり幅を設定する.....	21
縫い目を微調整する.....	21
差動送りを調節する.....	22
ギャザーの寄せ方.....	22
テープ付け案内の使い方.....	23
縫っている途中で糸が切れたとき.....	23
縫い目のほどき方.....	23
縫い始め、縫い終わりの糸の始末.....	24
ステッチ別各調節の目安表.....	25

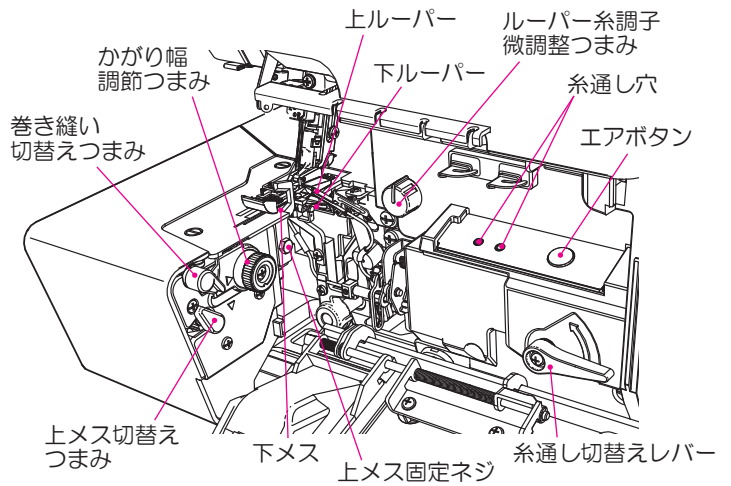
お手入れ

メスの交換.....	26
掃除と注油.....	26
別売品のご紹介.....	27
故障かな・・・というときは.....	28
仕様表.....	29
アフターサービスと保証.....	裏表紙

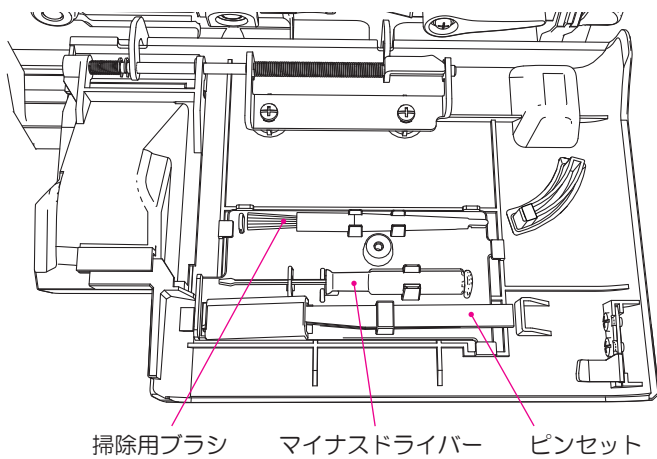
各部のなまえ



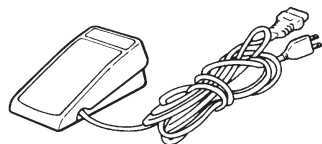
■ルーパーカバーを開けたところ



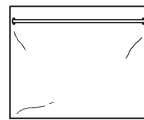
付属品



コントローラー



付属品袋



針

HA × 1_11 番 : 2 本
14 番 : 1 本



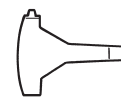
糸ゴマ当て座



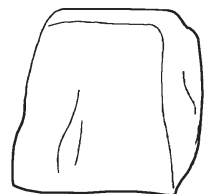
ルーパー糸通し具



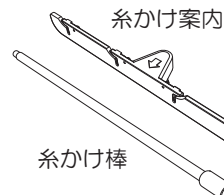
T字ドライバー



頭部カバー



付属シール



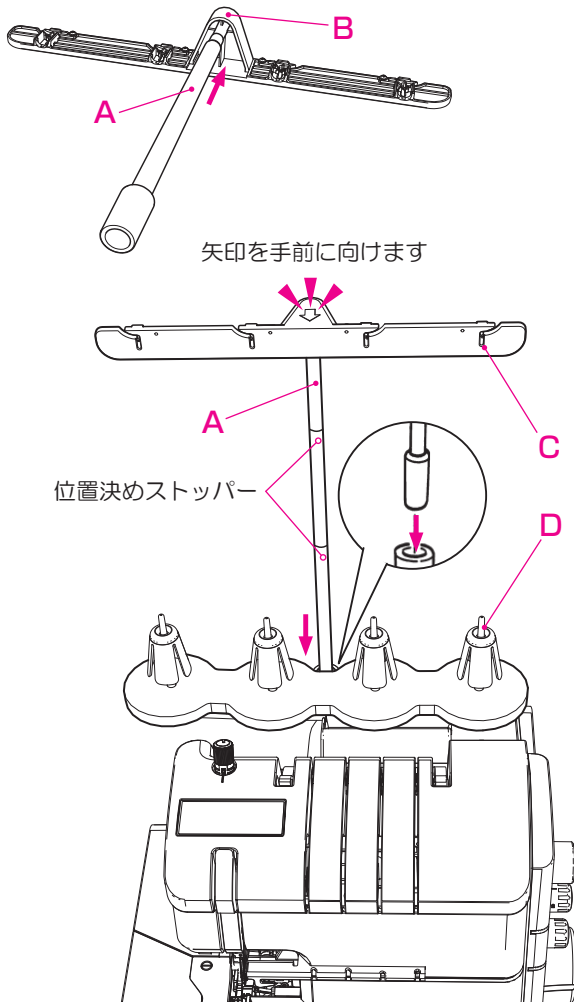
・取扱説明書(本書)

動かす前の準備

糸立装置を取り付ける

■糸かけ棒と糸かけ案内のセット

1. 糸かけ棒 (A) を糸かけ案内 (B) に差し込みます。
2. 糸かけ棒 (A) を引き出し、位置決めストッパーに「カチッ」と入れて、糸かけ (C) が糸立棒 (D) の真上になるようにセットします。

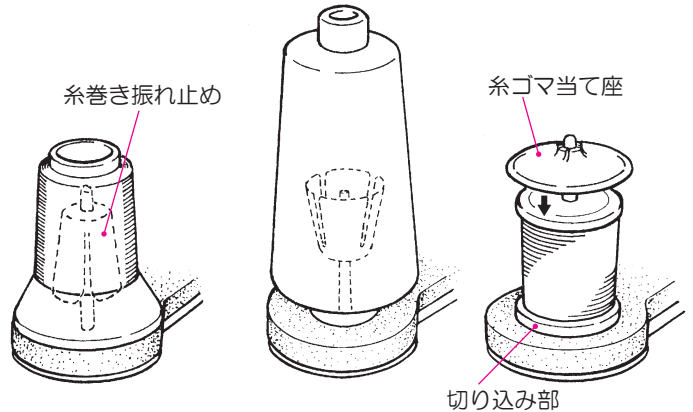


糸ゴムのセット方法

■ ロック用糸の場合

■ 大巻き糸ゴマの場合

■ 家庭用糸ゴマの場合



内径の大きい糸ゴマは、糸巻振れ止めを逆さにします。

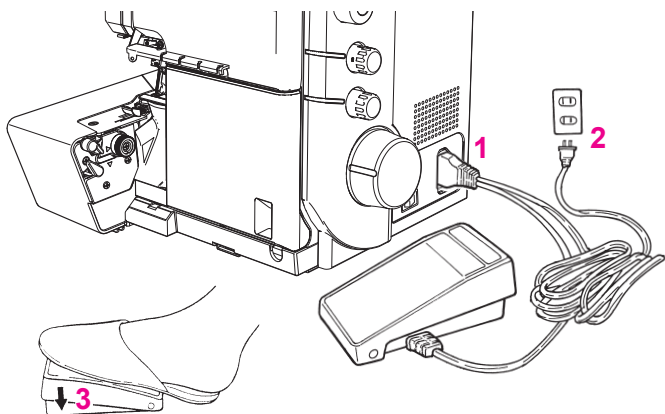
糸巻振れ止めを抜きとり、糸ゴマに切り込み部がある場合、それを下側にして糸ゴマをセットします。糸ゴマ当て座の凸部を上側に向け差し込みます。

各部の基本操作

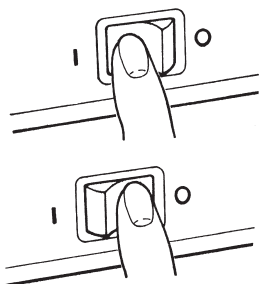
コントローラーを取り付ける

注意 電源スイッチが切れていることを確認してください。

- (1) コントローラーをソケット差込口に差し込みます。
- (2) プラグを室内コンセントに差し込みます。
- (3) 電源を入れコントローラーの上に足をのせます。コントローラーを強く（深く）踏むと速くなり、弱く（浅く）踏むと遅くなります。



電源の入れ方



I 側を押すと電源が入ります。
ランプもつきます。

O 側を押すと電源が切れます。

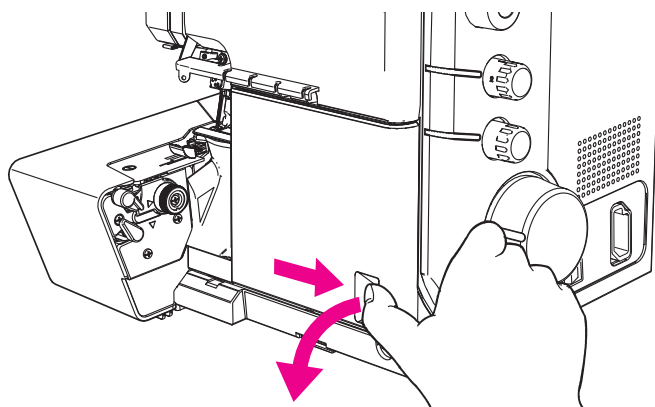
注意 ミシンをお使いにならないときは、下記のことを行ってください。

1. 電源スイッチをO（切る）にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

ルーパーカバーの開け方／閉め方

・開け方

ルーパーカバー開閉つまみを、右側に引いてから手前に倒します。



・閉じ方

ルーパーカバーを右に引きながら上にあげ、軽く向こう側に押すと自動的に閉じます。

安全装置について

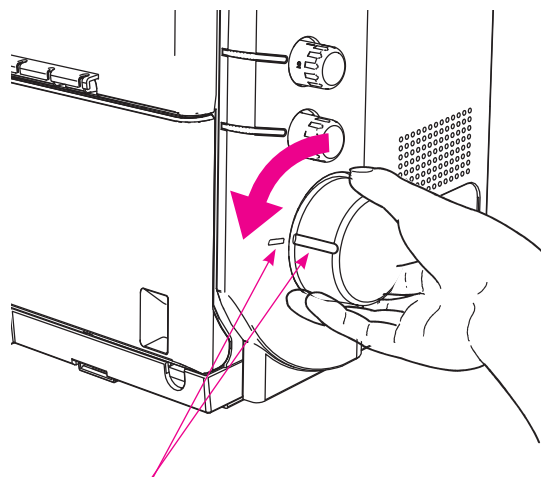
このミシンには誤作動を防止するために、安全装置が装備されており、以下のときはミシンが動かないようになっています。

- ・ルーパーカバーが開いているとき
- ・布台が開いているとき
- ・押えが上がっているとき

はずみ車（プーリー）の使い方

はずみ車は手前に回します。

※糸を通したあと、縫い始め、縫い終りなど、はずみ車を回すときは必ず手前に回してください。



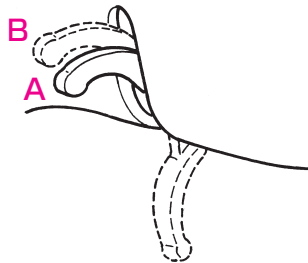
※サイドカバーの ■ 印と、はずみ車の □ 印を合わせると針は一番上になります。

押え上げレバーの使い方

(押え上げレバーにより押えを上げます)

- A 通常の場合、A 位置まで上がります。
- B 押えの交換や厚布など押えと針板とのすき間を必要とするとき、B 位置まで上げます。

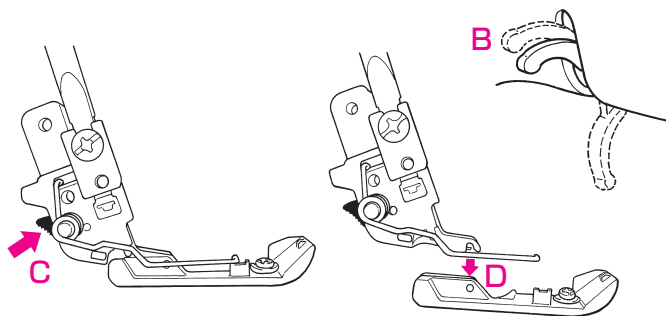
※ A 位置にレバーを上げると糸調子皿が開きますので糸通しのときは、必ず押えを上げてください。



押えの交換

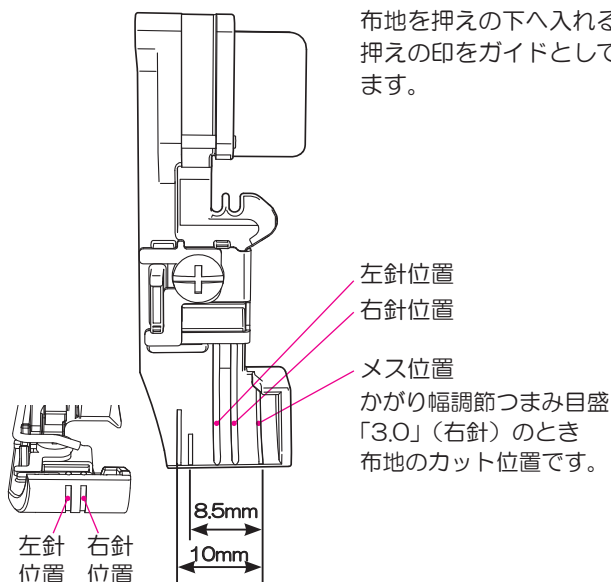
注意 押えの交換のときは、電源スイッチを切り、上メスを下に下げてください。

1. 押えを上げます。
 2. はずみ車を回し、針を一番上まで上げます。
 3. C部を押すと押えがはずれます。
 4. 押えを取り付ける場合は、押え上げレバーをB位置に上げ、押えを下に置き、押えのピンを押えホルダーの溝(D)部の下に正しく置き、押え上げレバーを下げてください。
- ※ D部にピンがセットされたことを確認し、セットされない場合は、C部を押してセットしてください。



押えの使い方

布地を押えの下へ入れるとき、押えの印をガイドとして使います。



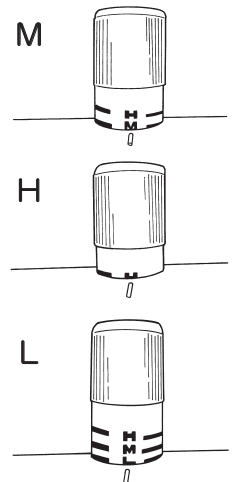
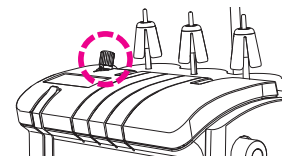
押え圧を調節する

押え圧調節つまみの線とトップカバーの上端を合わせます。

M: 普通地、通常のと合わせます。

H: 押え圧が強くなります。
デニム、ツイード、
堅いリネンなど厚手の布地

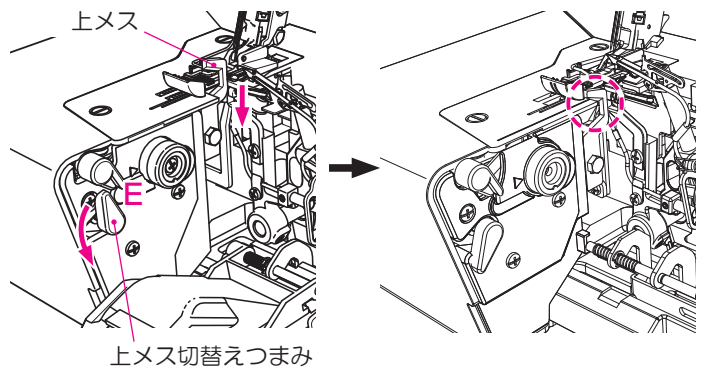
L: 押え圧が弱くなります。
ジョーゼット、ローン、
トリコットなど薄手の布地



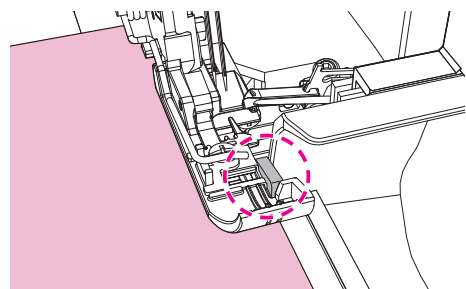
布を切らずに縫うとき(上メスの解除)

注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください。

1. 上メス切替えつまみ E を矢印方向に下げます。
2. メスが固定されて動かなくなります。



※ 固定されたメスはそのまますみガイドとして使用できます。



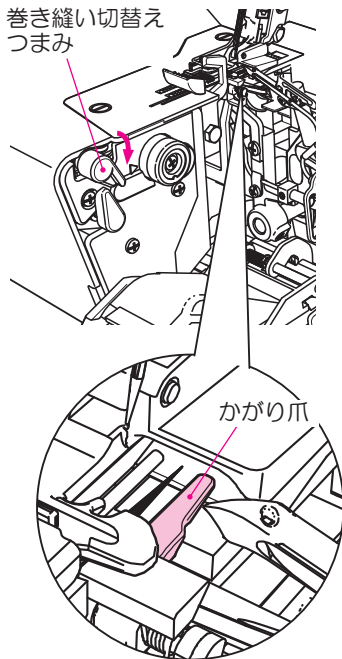
注意: 上メスを使用するときは、上メス切替えつまみ E を上げ、はずみ車を手回して2回転ほど回して上メスを上げてください。

かがり縫い・巻き縫いの切替え

※はずみ車を回し、針を一番上にします。(9 ページ参照)

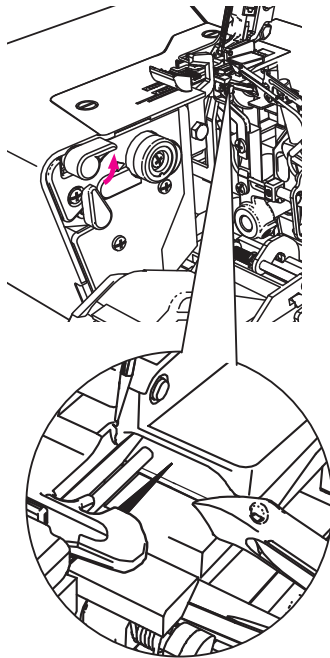
• 普通のかがり縫いの場合

巻き縫い切替えつまみを下にして、かがり爪が出るのを確認します。



• 巻き縫いの場合

巻き縫い切替えつまみを上にして、かがり爪が下がるのを確認します。



布地・糸・ミシン針対応表

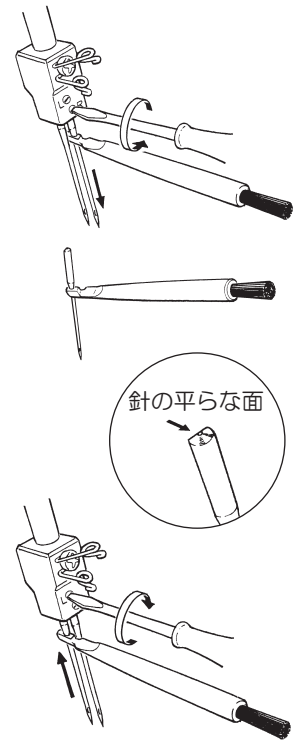
- かがり縫い、合わせかがり縫いの目安です。
- 伸縮性がある布（ニット地）や目飛びしやすい合・化繊地を縫う場合には、SP 針（ニット針）を使うと目飛び防止効果があります。

布地の種類		糸の種類		ミシン針
薄地	ジョーゼット	スパン糸	80 番～90 番	HA × 1 (SP) 11 番
	ローン トリコット			
普通地	ポプリン	スパン糸 フィラメント糸 (テترون)	60 番～90 番	HA × 1 (SP) 11 番～14 番
	ギンガム		60 番～80 番	
	ブロード ギャバジン メリヤス			
厚地	デニム	スパン糸 フィラメント糸 (テترون)	60 番	HA × 1 (SP) 14 番
	ツイード ジャージー		50 番～60 番	

針の交換

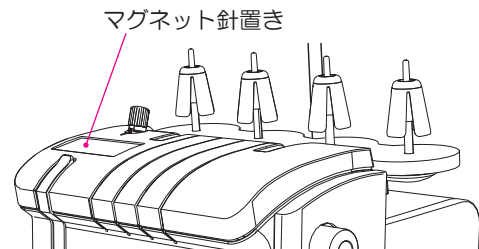
注意 針の交換のときは、電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を手前に回し、針を一番上まであげます。
2. 掃除用ブラシの反対側の穴に針をさし込みます。
3. マイナスドライバーを使い、針止めネジをゆるめて針をはずします。
4. 掃除用ブラシの穴に新しい針の平らな面を向こう側にして針を入れます。
5. 針止めの穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。



• マグネット針置き

交換した針を置いておくことができます。



■ 針の種類

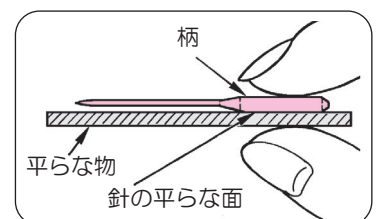
この小型ロックミシンの針は家庭用ミシン針を使います。

針の種類	用途
HA × 1	一般生地用
HA × 1 SP	ニット用

※お買い求めの際は、このタイプの針をご指定ください。
※ご購入時のミシンには、HA × 1SP（ニット針）11 番が取り付けられています。

■ 針の調べ方

すき間が針先まで平行に見えるのがよい針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないでください。



糸のかけ方

糸かけの準備

1. 糸かけ案内を付けた糸かけ棒を一番上までのばします。
2. 押えを上げます。(糸調子皿が開きます)
3. ルーパーカバーを開けます。
4. 電源を入れます。

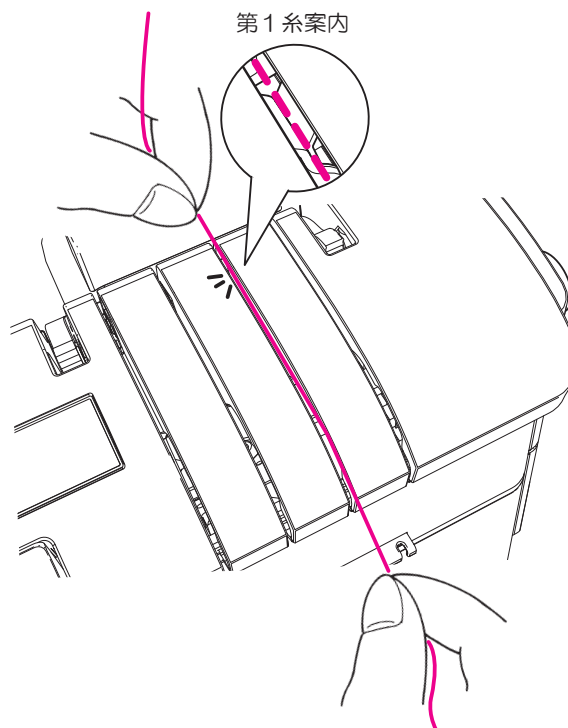
■糸かけ順序

糸かけはどの糸からかけてもかまいません。
それぞれの糸かけをする場所に色表示が付いています。

- 下ルーパー糸 (赤色印)
- ▲ 上ルーパー糸 (青色印)
- 右針糸 (緑色印)
- ◆ 左針糸 (薄茶色印)

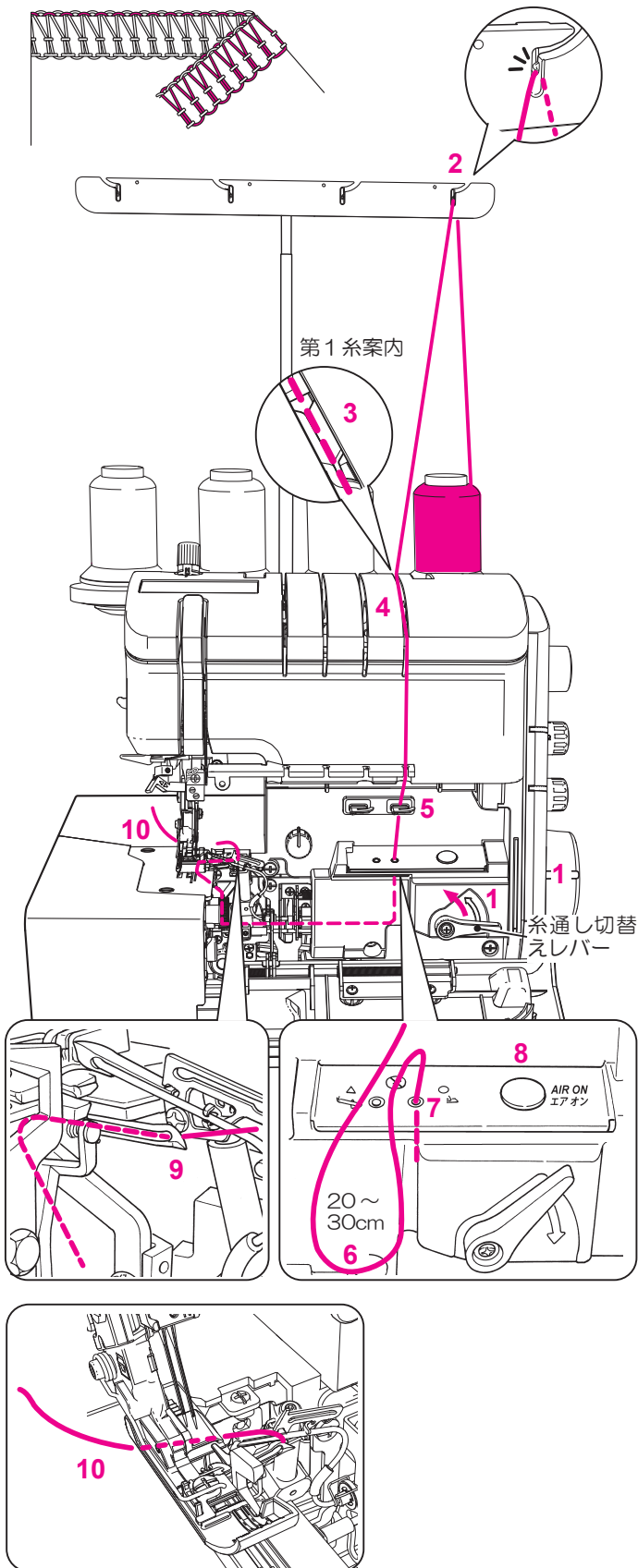
■第1 糸案内の糸かけ

糸かけ案内にかけた糸を下へもってきて、糸を張りながら両手でパチッと音がするようにはめます。
溝に沿って糸を手前にもっていきます。





下ルーパー糸（赤印）をかける

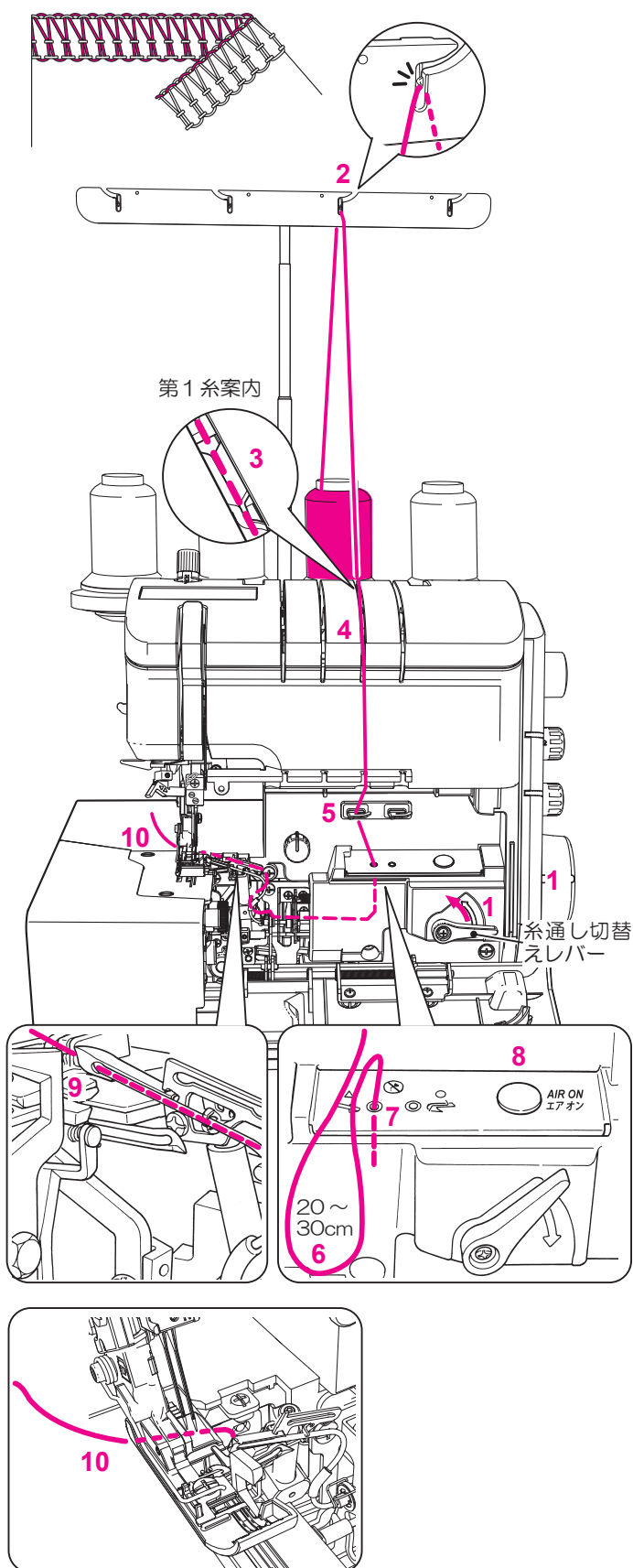


- (1) 糸通し切替えレバーを矢印方向へ上げ、カチッと音がするまではずみ車を手前に回します。（糸通しパイプがつながります）
- (2) 糸ゴマから真上の糸かけに後から前へ糸をかけます。このとき、しっかり溝に入れ込みます。
- (3) 第1糸案内にかけます。
- (4) 糸を張りながら溝に入れます。
- (5) 糸案内にかけます。
- (6) 糸を20～30cm引っ張り出してルーパーカバーの内側に垂らしておきます。
- (7) 糸通し穴に糸の先端を1～2cm挿入します。このとき、糸の先をはさみで切り揃えると挿入しやすくなります。
- (8) エアボタンを押します。
- (9) 下ルーパーの先端から糸が飛び出していることを確認します。
- (10) 糸を約10cm引き出して上ルーパーの上方から下へ持っていく、押えの下へ入れて、後ろに出します。

縫製中に上下ルーパーどちらかの糸が切れ、再度糸通しをする場合は、一度切れていないルーパー糸も抜いた後、再度糸通し切替えレバーを糸通し側にして、上下ルーパー糸を通してください。



上ルーパー糸（青印）をかける



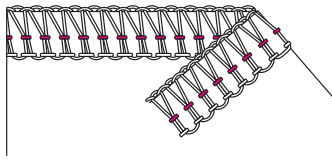
- (1) 糸通し切替えレバーを矢印方向へ上げ、カチッと音がするまではずみ車を手前に回します。（糸通しパイプがつながります）
- (2) 糸ゴマから真上の糸かけに後から前へ糸をかけます。このとき、しっかり溝に入れ込みます。
- (3) 第1糸案内にかけます。
- (4) 糸を張りながら溝に入れます。
- (5) 糸案内にかけます。
- (6) 糸を20～30cm引っ張り出してルーパーカバーの内側に垂らしておきます。
- (7) 糸通し穴に糸の先端を1～2cm挿入します。このとき、糸の先をはさみで切り揃えると挿入しやすくなります。
- (8) エアボタンを押します。
- (9) 上ルーパーの先端から糸が飛び出していることを確認します。
- (10) 糸を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

注意：糸通し切替えレバーを戻します。

上下ルーパーの糸かけが終わったら、必ず糸通し切替えレバーを戻してください。糸通し切替えレバーを戻さないと、ルーパーカバーは閉まりません。



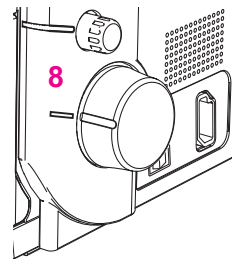
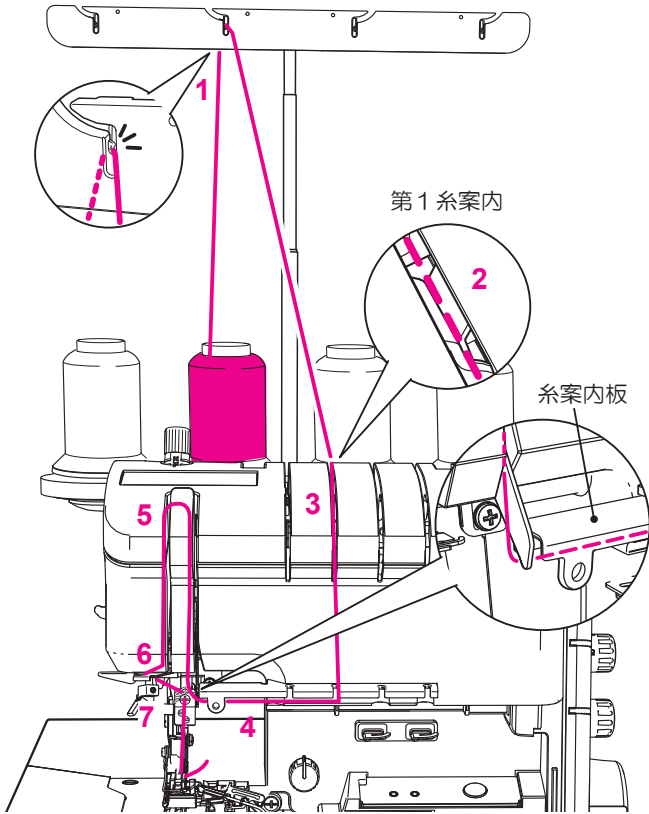
右針系（緑印）をかける



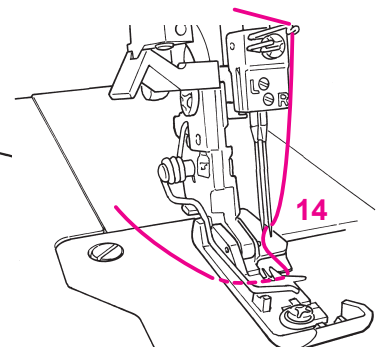
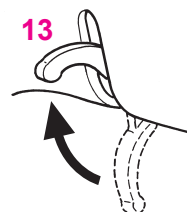
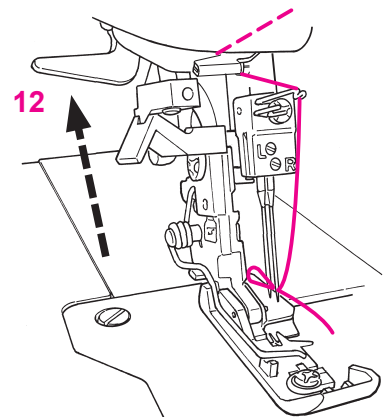
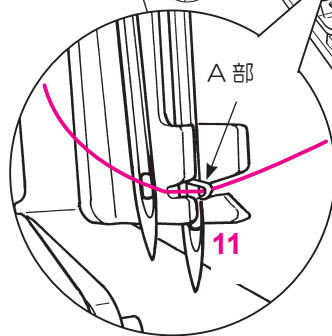
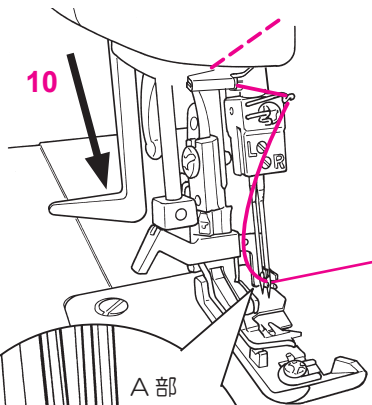
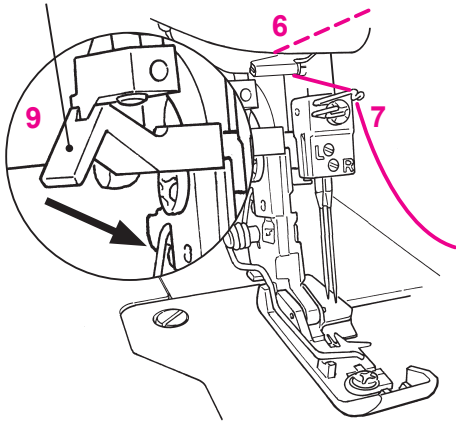
注意

針系をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

- (1) 糸ゴマから真上の糸かけに後から前へかけます。
このとき、しっかり溝に入れ込みます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 糸を張りながら溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（緑印）にかけます。
- (6) 糸案内にかけます。
- (7) 針棒糸案内（右側）にかけます。
- (8) はずみ車を手前に回して、□印をサイドカバーの■印に合わせ、押えを下げます。
- (9) 左・右針切替えレバーを、右側へ確実に突き当たるまで押し
ます。（右針用になります）
- (10) 糸通しレバーを一番下で止まるまで下げます。
- (11) A部に両手で糸を押し込みます。
- (12) 糸通しレバーを上押し上げると、糸が針穴に通ります。
- (13) 押えを上げます。
- (14) 糸を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出しま
す。

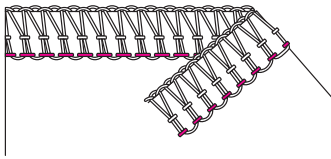


左・右針切替えレバー



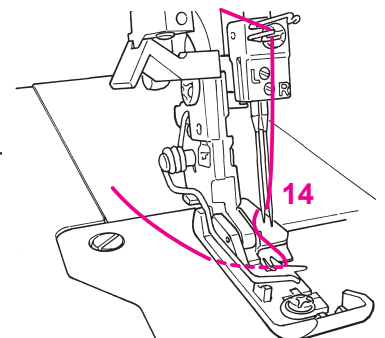
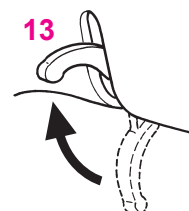
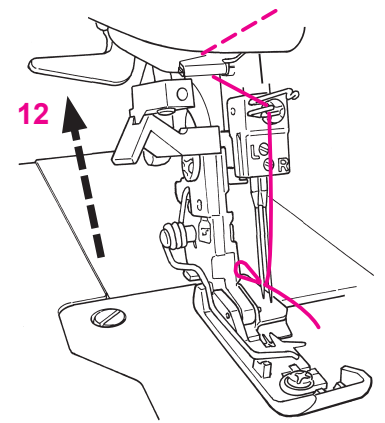
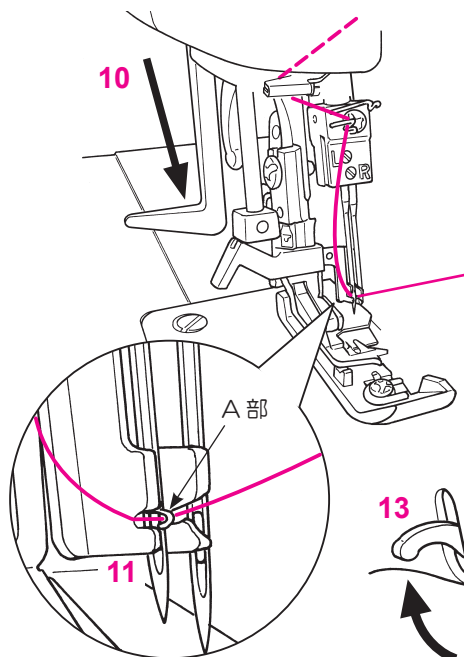
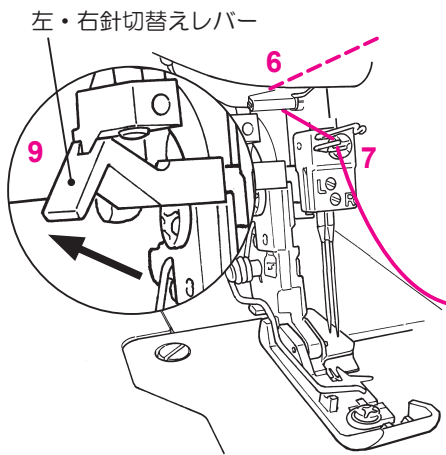
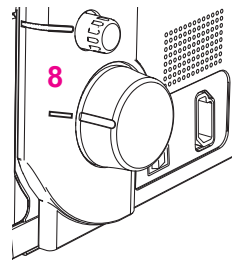
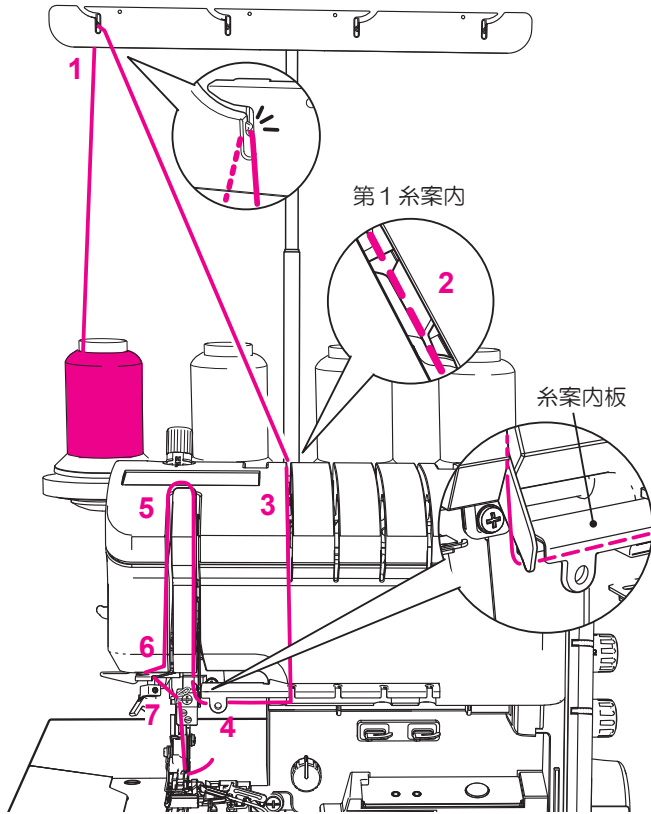


左針系（薄茶印）をかける



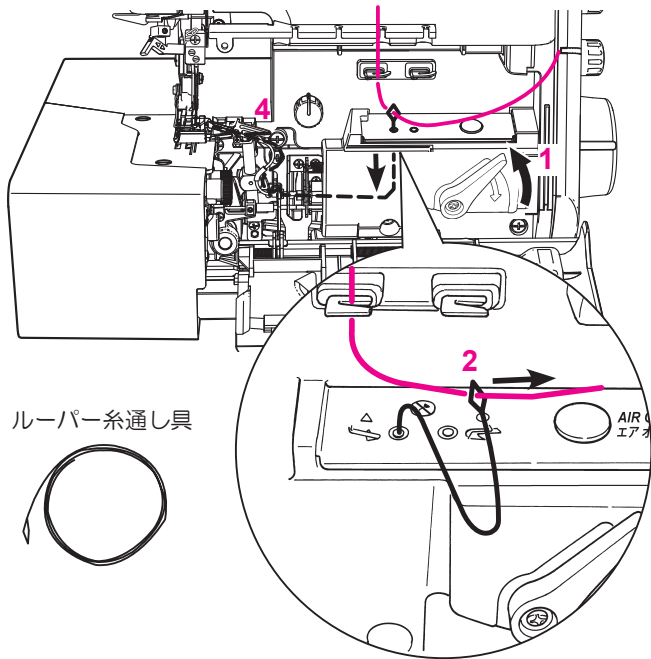
⚠ 注意 針系をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

- (1) 糸ゴマから真上の糸かけに後から前へかけます。
このとき、しっかり溝に入れ込みます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 糸を張りながら溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（薄茶印）にかけます。
- (6) 糸案内にかけます。
- (7) 針棒糸案内（左側）にかけます。
- (8) はすみ車を手前に回して、□印をサイドカバーの■印に合わせ、押えを下げます。
- (9) 左・右針切替えレバーを、左側へ確実に突き当たるまで引き
ます。（左針用になります）
- (10) 糸通しレバーを一番下で止まるまで下げます。
- (11) A部に両手で糸を押し込みます。
- (12) 糸通しレバーを上押し上げると、糸が針穴に通ります。
- (13) 押えを上げます。
- (14) 糸を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出しま
す。



ルーパー系通し具の使い方

ウーリー糸などの、糸通し穴に入りにくい糸は、付属の「ルーパー系通し具」を使用するか、スパン糸などの糸を約30cm程度に切り、先端に結んだ状態で糸を通し、引き抜いてください。(ルーパー系通し具はパイプの掃除具としてもご使用いただけます)



1. 糸通し切替えレバーを矢印方向へ上げ、カチッと音がするまではずみ車を手前に回します。
2. ルーパー系通し具の輪に糸を通します。
3. ルーパー系通し具がルーパーの先から出てくるまで、ルーパー系通し具を手で通していきます。
4. ルーパー系通し具がルーパー先端から出てきたら、糸が出るまで引き抜きます。

注意：エアボタンは押さないでください。

縫製中に上下ルーパーどちらかの糸が切れ、再度糸通しをする場合は、一度切れていないルーパー糸も抜いた後、再度糸通し切替えレバーを糸通し側にして、上下ルーパー糸を通してください。

注意：糸通し切替えレバーを戻します。

上下ルーパーの糸かけが終わったら、必ず糸通し切替えレバーを戻してください。糸通し切替えレバーを戻さないと、ルーパーカバーは閉まりません。

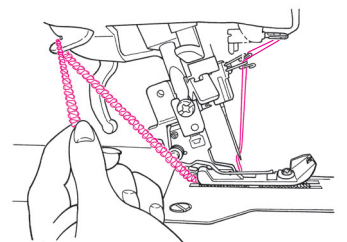
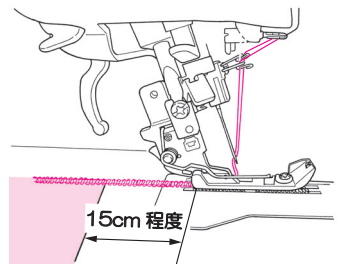
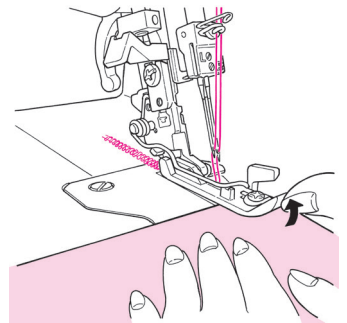


ぬってみましょう

試し縫いをする

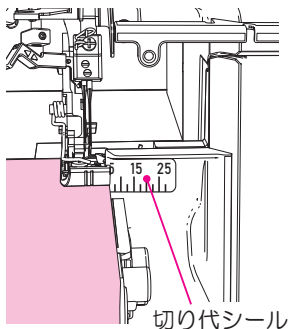
二枚合わせの布地を使い、縫い目が正しいかどうか調べます。

1. ルーパーカバーを閉め、電源を入れます。
2. 上メスが上がっているかを確認めます。
3. 押えを下げます。
4. 糸かけした糸を押えの後ろ側で持ち、コントローラーを踏んで空環を6～7cm出します。
5. 押えの手前を指先で上げ、布地を上メスの手前まで入れます。
6. スタートさせます。
7. 縫い終わったら15cm程度空環を出します。
8. 糸切り刃に空環をかけて切ります。



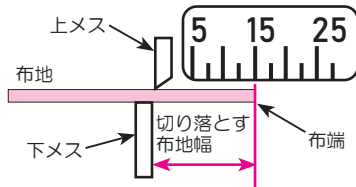
※ からかん 空環とは：布地がなくて、糸の縫い目形状ができたものです。

縫うときの目安



●切り代シール

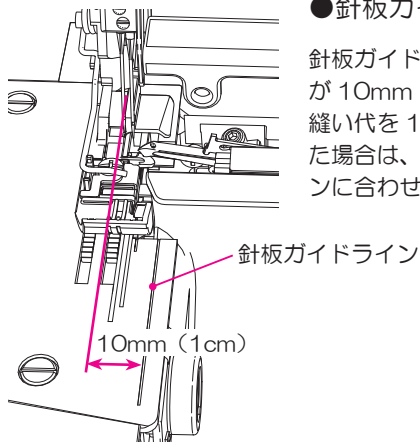
切り代シールはメスで切り落とす布地幅の目安となります。
布端を5の線に合わせると約5mmの幅で切り落とし、15の線に合わせると約15mmで切り落とします。



※正確を要する場合にはチャコペン等で布地に裁断線を記入してから縫うことをお勧めします。

●針板ガイドライン

針板ガイドラインは左針までの距離が10mm (1cm) です。
縫い代を10mm (1cm) で裁断した場合は、布端を針板のガイドラインに合わせます。

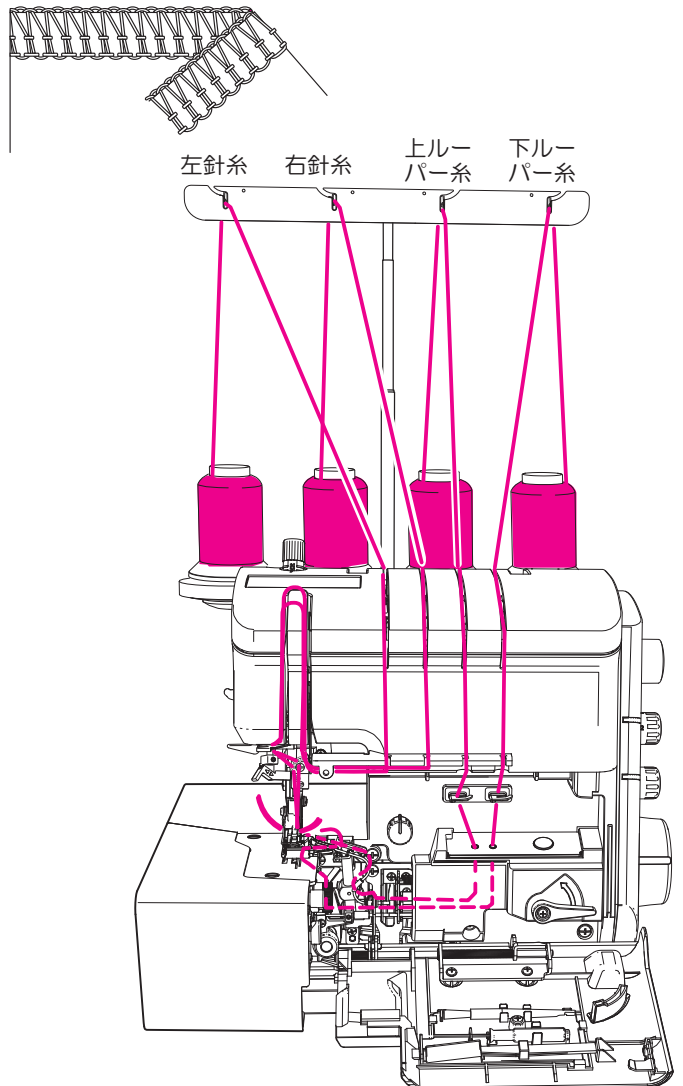


縫い目の種類

2本針4本糸ロック

⚠ 注意

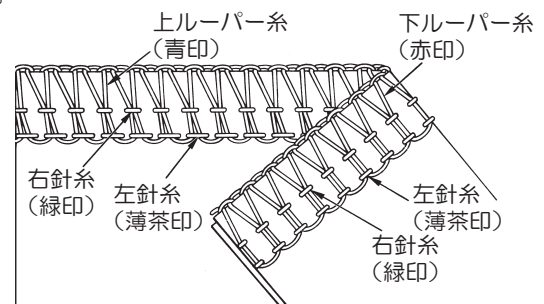
針を外したり、装着するときは、電源スイッチを切ってください。
かがり幅調節のときは電源スイッチを切ってください。



1. 2本とも針を取りつけます。(標準状態です)
2. 縫い目切替つまみをAに合わせます。
3. 4本とも糸をかけます。(13～16ページ参照)
4. 縫い目長さ調節つまみを生地の種類によって調節します。
(標準 2.5) (21ページ参照)
5. かがり幅調節つまみを生地の種類によって設定します。
(21ページ参照)

●正しい縫い目

- 布端で上ルーパー系と下ルーパー系がからみ合っている。
- 左針系と右針系が布表、裏の両面から見て糸の浮きや遊びがない。



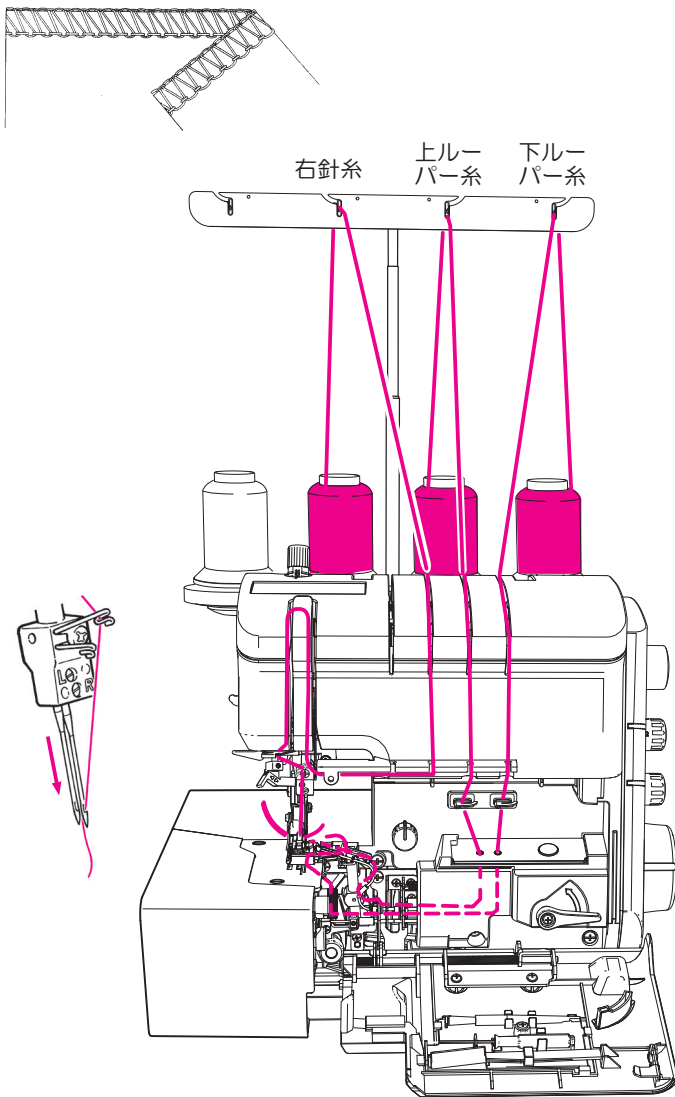
1 本針 3 本糸ロック



注意

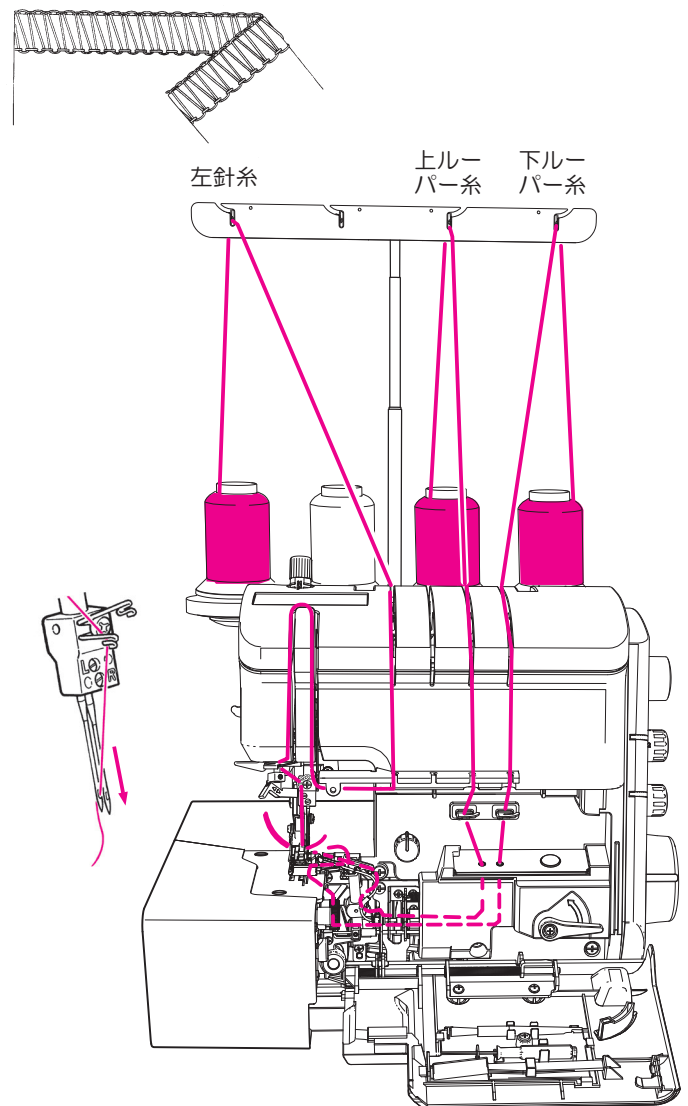
針を外したり、装着するときは、電源スイッチを切ってください。
かがり幅調節のときは電源スイッチを切ってください。

• 右針 (2.5 ~ 5 mm 幅) 縁かがりの場合



1. 左針を取り外します。(11 ページ参照)
2. 縫い目切替つまみを B に合わせます。
3. 上ルーパー、下ルーパー、右針に糸をかけます。(13 ~ 15 ページ参照)

• 左針 (4.5 ~ 7 mm 幅) 縁かがりの場合



1. 右針を取り外します。(11 ページ参照)
2. 縫い目切替つまみを A に合わせます。
3. 上ルーパー、下ルーパー、左針に糸をかけます。(13, 14, 16 ページ参照)

巻き縫い（全巻き縫い / 細ロック縫い）



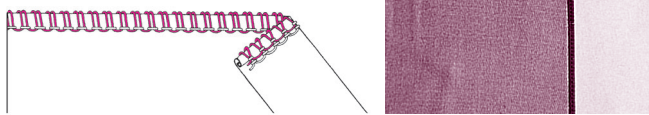
注意

針を外したり、装着するときは、電源スイッチを切ってください。
かがり幅調節のときは電源スイッチを切ってください。

このミシンには巻き縫い装置が内蔵されていますので、全巻き縫いと細ロック縫いができます。
裾や袖口など布端を自動的に巻き込みながら細く美しいかがりができます。

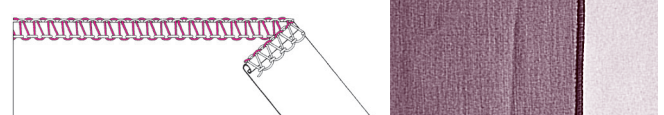
●全巻き縫い

全巻き縫いは上ルーパー系で布端をくるむ縫い目です。



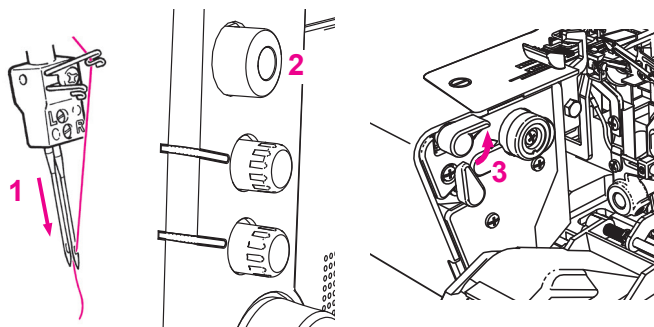
●細ロック縫い

ロック縫いは普通の縁かがり縫いのかがり幅の狭い縫い目です。



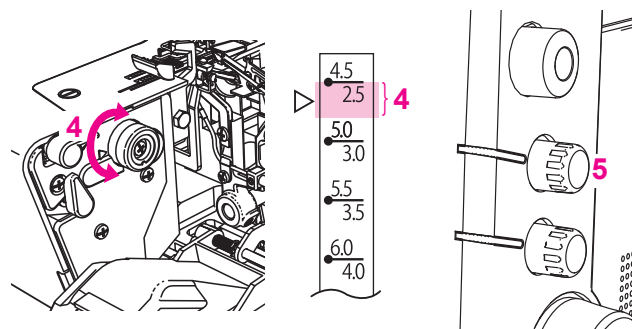
■全巻き縫いの準備

1. 左針を取り外します。（11 ページ参照）
2. 縫い目切替つまみを D に合わせます。
3. 巻き縫い切替つまみを上にして、かがり爪を下げます。
4. かがり幅調節つまみの目盛を「2.5～3.5」に合わせます。
5. 縫い目長さ調節つまみを「0.7～1.5」にします。



■細ロックの準備

1. 左針を取り外します。（11 ページ参照）
2. 縫い目切替つまみを C に合わせます。
3. 巻き縫い切替つまみを上にして、かがり爪を下げます。
4. かがり幅調節つまみの目盛を「2.5～3.5」に合わせます。
5. 縫い目長さ調節つまみを「0.7～1.5」にします。

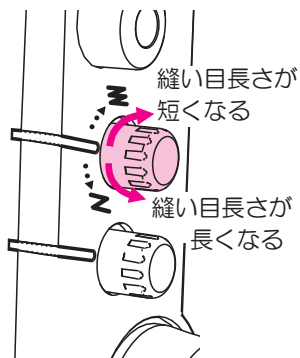


各種の調整

縫い目長さを調節する

縫い目長さ調節つまみで調節します。
縫い中でも「0.7～4」の範囲で調節できます。

- 普通の縁かがりは「2.5」が標準です。
- 全巻き縫い、細ロック縫いは「0.7～1.5」が最適です。
- 別売りの押えを使用したブラインドステッチ（まつり縫い）のときなどは「4」にします。



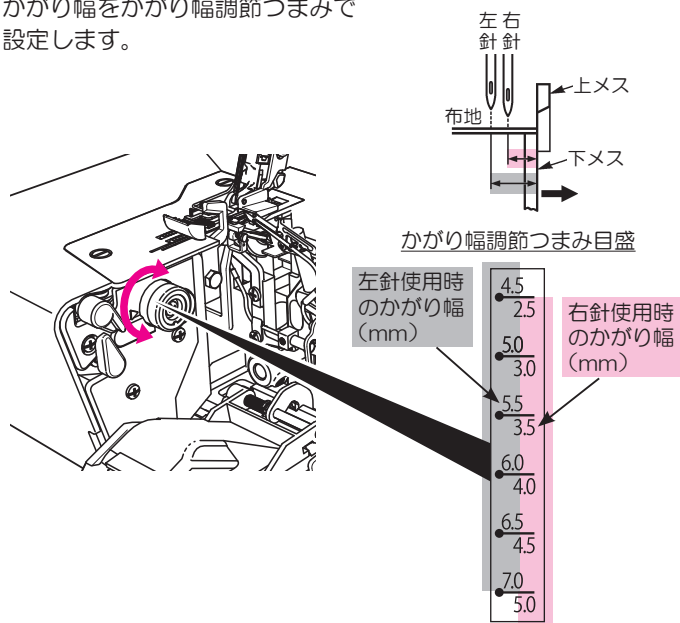
かがり幅を設定する



注意

かがり幅を設定するときは、電源スイッチを切ってください。

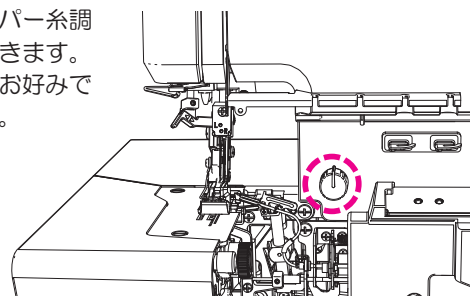
かがり幅をかがり幅調節つまみで設定します。



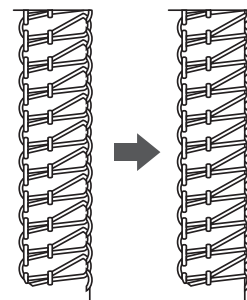
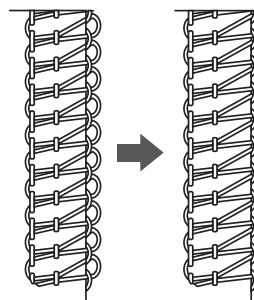
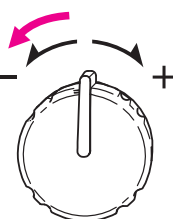
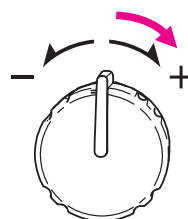
右針・左針の両方を使用する場合
左針使用時のかがり幅で合わせます。

縫い目を微調整する

このミシンは糸調子を自動で調整しますが、ルーパー糸調子を手動で微調整できます。縫う素材等により、お好みで微調整してください。



- ルーパー糸調子がゆるい場合 → つまみを右に回します。
- ルーパー糸調子が強い場合 → つまみを左に回します。



注意



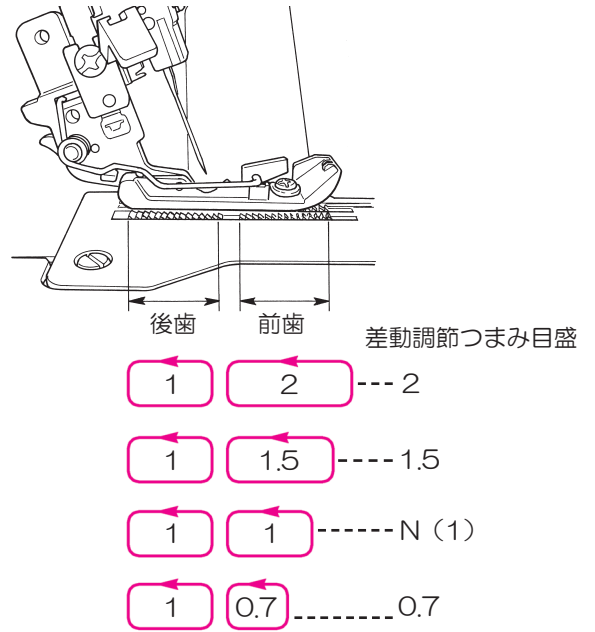
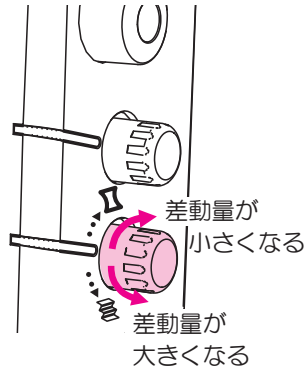
まち針を布地に刺したまま縫わないでください。また、布地や糸以外のものをメスで切断しないでください。メスが破損したり、針が折れて怪我をしたりする恐れがあります。

差動送りを調節する

縫いちぢみや、縫い伸びしやすい布地は
差動調節つまみを使うと、平らに美しく仕上がります。

- ※この差動調節を応用して、
一枚の布地にギャザー寄せ（下記参照）ができます。
- ※差動送りの調節量により、糸調子が変わることがあります。
その場合には、ルーパー糸調子微調整つまみで
糸調子を調整します（21 ページ参照）

- 送り歯の前歯と後歯の動く量を
変化させることにより調節ができます。

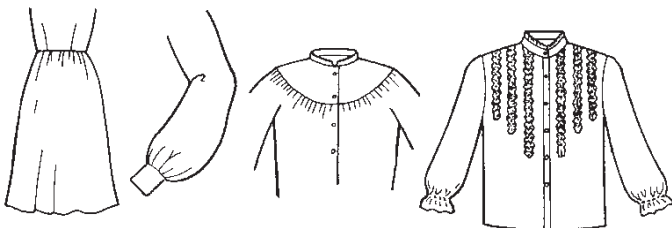


	縫い伸びしやすい布地			縫いちぢみしやすい布地
布地	厚地ニット地 厚地ジャージー その他伸びる布地	中厚ニット地 メリヤス ジャージー	織布	ジョーゼット リネン、サテン ローン
差動調節数値	N → 1.5~2	N → 1.5	N (差動なし)	N → 0.7
差動調節有無の縫い目				

ギャザーの寄せ方

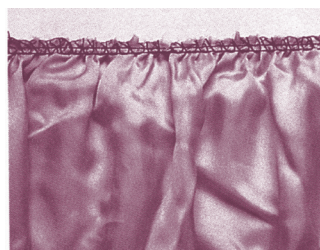
薄地、普通地の一枚の布地にギャザー寄せができます。

[例] スリーブヘッド、裾、ヨーク、レース、フリルなど



1. 差動調節の数値を「2」にします。
2. 縫い目長さ調節の数値を「4」にします。

4本糸ギャザー寄せ



3本糸ギャザー寄せ



※極端にギャザーを寄せるときは縫い上がってから針糸を指で引張ります。

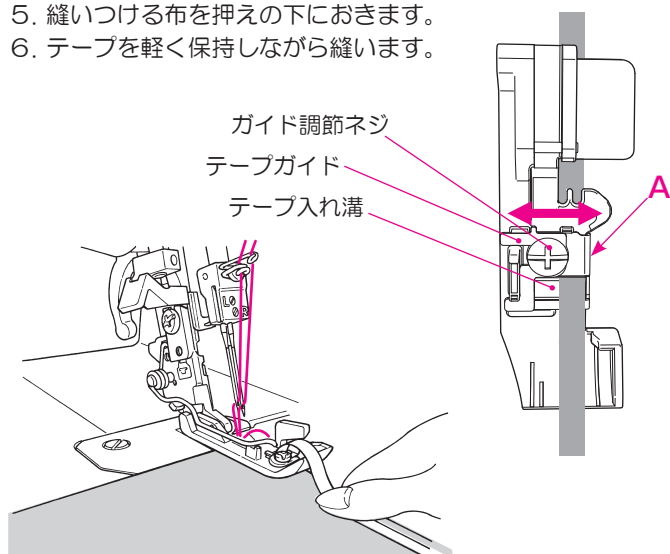
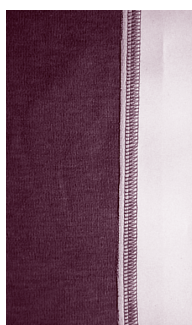
※ギャザー終了後は、差動調節の数値を「N」に戻します。

テープ付け案内の使い方

このミシンの押えにはテープ付け案内がついています。

ニット地などの伸縮性のある布地の肩線や脇線などの縫い合わせ時に、テープを一緒に縫い付けると、伸び縮みしなくなります。

1. はずみ車を手前に回し、針を一番上に戻します。
2. 押えを上げて、テープを押えのテープ入れ溝に通し、テープを押えの後ろ側まで引っ張り出してから押えを下げます。
3. 付属のT字ドライバーでガイド調節ネジをゆるめます。テープガイドをテープの幅に合わせ(A)、ガイド調節ネジをしめます。
4. はずみ車を手で回してテープを2～3針縫います。
5. 縫いつける布を押えの下におきます。
6. テープを軽く保持しながら縫います。

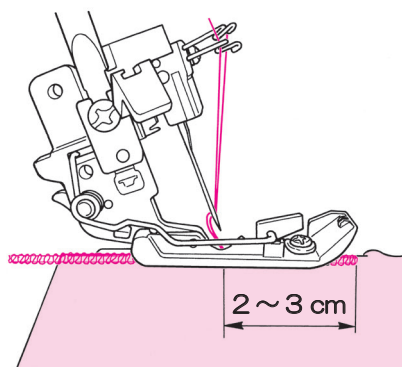


縫っている途中で糸が切れたとき

1. すぐに縫いを中止して、布地ははずします。
2. 切れた糸をかけなおします。

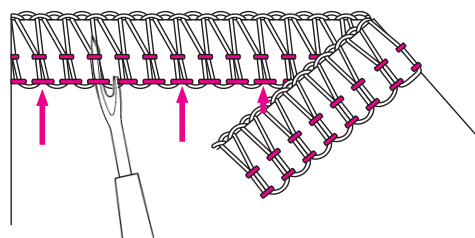
縫製中に上下ルーパーどちらかの糸が切れ、再度糸通しをする場合は、糸通しパイプがつながるときに切れていないルーパー糸が切れてしまう可能性があるため、一度切れていないルーパー糸も抜いた後、再度糸通し切替えレバーを糸通し側にして、上下ルーパー糸を通してください。

3. 押えを上げ、布地をその下へ入れます。すでに縫われた縫い目の上を2～3cm重ねて縫います。



縫い目のほどこき方

市販のリッパー（目ほどこき）で左右の針糸を数か所切り、針糸を抜くと、ルーパー糸を簡単にほどくことができます。



縫い始め、縫い終わりの糸の始末

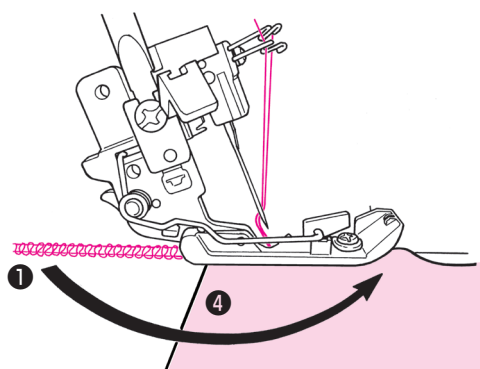
ロックミシンの場合、縫い始めと、終りの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。縫い目を閉じてください。

1. ロックミシンでの始末

1) 縫い始めの糸の始末

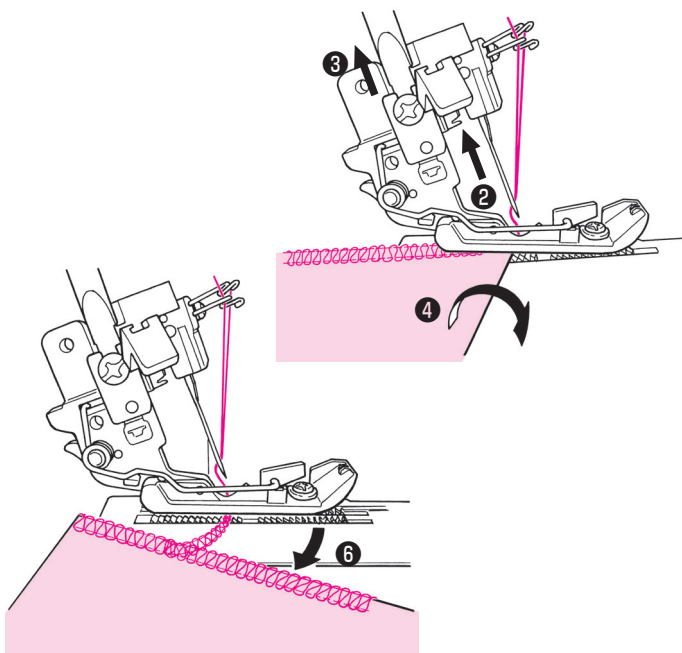
- ① 縫い始めの空環を3～4 cm 出します。
- ② 布地を2～3針縫います。
- ③ 針を下げ、押えを上げます。
- ④ 空環を手前に引き出し、押えと布地の間に左側から入れます。
- ⑤ 押えを下げて、空環の上から縫います。

※縫い目が互いにクロスした場合、空環は自動的に閉じられます。



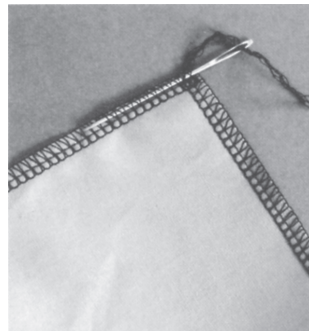
2) 縫い終わりの糸の始末

- ① 布地の終りで針を止めます。
- ② 針を上げます。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 布地を裏返して、かがり幅に合わせて針を落します。
- ⑤ 押えを下げます。
- ⑥ 今まで縫ったところが上メスに当たらないように2～3 cm 縫い進み、布地をはずします。
- ⑦ 空環の始末をします。



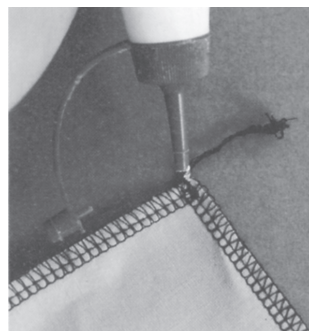
2. 閉じ針を使う始末

縫い始め、終りの空環を2～3 cm 残り、閉じ針で縫い目の中に入れる方法です。
※閉じ針は付属品ではありません。



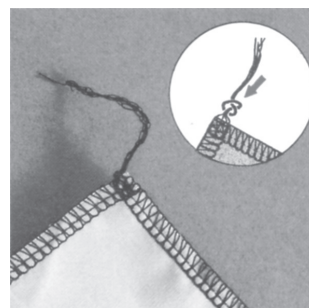
3. 手芸ボンドでの始末

布上の空環の根元に手芸用ボンドを少しつけて乾燥してから余分な空環を落します。








4. 糸を結ぶ方法

すべての糸を1本にまとめて結び、結び目を布上ぎりぎりまでの位置にします。そして余分な糸を落します。



ステッチ別各調節の目安表

ステッチ仕様	縫い目の幅（使用する針）	縫い目切替つまみ	各調節つまみ
4本系合わせ縁かがり縫い 	4.5 ~ 7 mm (左、右針)	A	縫い目長さ調節：2.5 かがり幅調節：2.5 ~ 5.0 (左針 4.5 ~ 7.0) 差動調節：ニット地 N ~ 2 織布 N ~ 0.7 巻き縫い切替えつまみ：下側
3本系縁かがり縫い 左針：  右針： 	4.5 ~ 7 mm (左針)	A	縫い目長さ調節：2.5 かがり幅調節：2.5 ~ 5.0 (左針 4.5 ~ 7.0) 差動調節：ニット地 N ~ 2 織布 N ~ 0.7 巻き縫い切替えつまみ：下側
	2.5 ~ 5 mm (右針)	B	
3本系細ロック縫い 	2 mm (右針)	C	縫い目長さ調節：0.7 ~ 1.5 かがり幅調節：2.5 ~ 3.5 (左針 4.5 ~ 5.5) 差動調節：N ~ 0.7 巻き縫い切替えつまみ：上側
3本系全巻き縫い 	2 mm (右針)	D	縫い目長さ調節：0.7 ~ 1.5 かがり幅調節：2.5 ~ 3.5 (左針 4.5 ~ 5.5) 差動調節：N ~ 0.7 巻き縫い切替えつまみ：上側

お手入れ

メスの交換

下メスは特殊超硬材を使用していますので、普通は交換する必要はありませんが、刃先がかけたとき交換します。

下メス・上メスの交換につきましては、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

掃除と注油

注意 掃除、注油のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

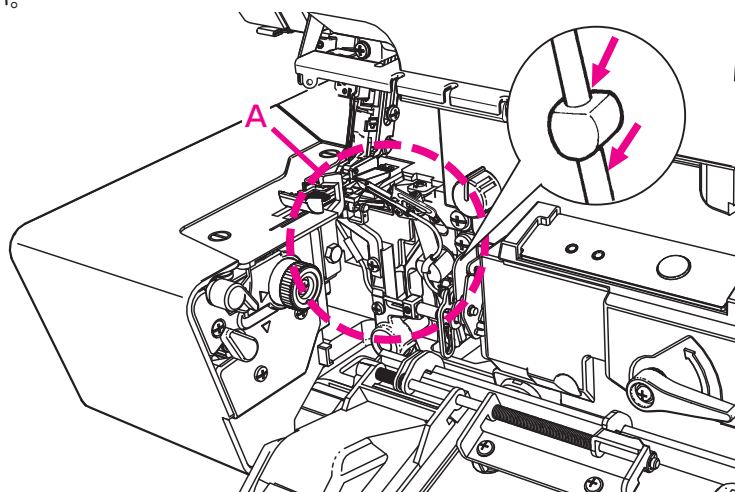
ミシンをご使用になりますと、綿ぼこりがたまりますので定期的に取り除いてください。
針板と下メスのまわりには、綿ぼこりがたまりやすいので、定期的に取り除いてください。(A)
上下ルーパーのパイプの掃除をするときは、付属の「ルーパー系通し具」を使用します。(使い方は17ページ参照)

このミシンには重要な部分に特殊材料を使用しており、頻度は高くありませんが縫い音などが気になる場合には、図の矢印部分に市販のミシン油を1～2滴注油してください。

【油の取り扱い注意】

※ このミシンには油は同梱していませんが、市販の油を使用する際は、下記にご注意ください。

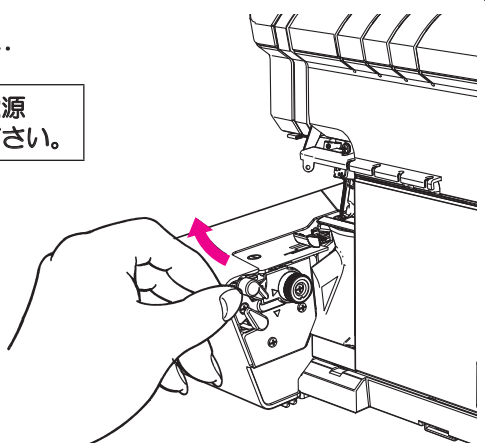
- 炎症、かぶれを防ぐため、目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
- 下痢、嘔吐を防ぐため、誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- 子供の手の届かないところに置いてください。
- 油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。



布台を開けて掃除をするときは…

注意 布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。

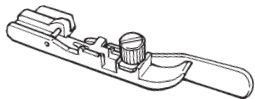
- 開け方
布台の手前を左側に押すと開きます。
- 閉じ方
布台をミシンの方へ押しします。



別売品のご紹介

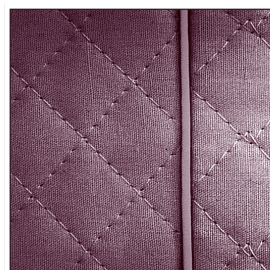
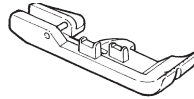
●ブラインドステッチ押え

スカート、ズボンの裾、
Tシャツの袖口、裾の処理に



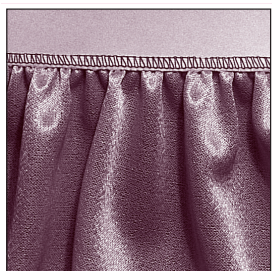
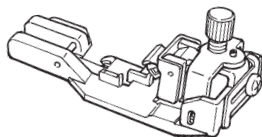
●パイピング押え

トレーナーのアクセントや
バックのコーナーに



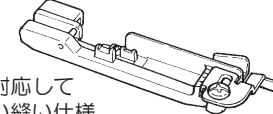
●ゴムテープ付け押え

水着、レオタード、
衣服のゴム入れに



●パール付け押え

ドレスやブラウスの
かざり付けに

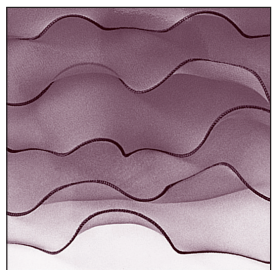
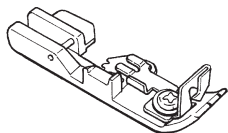


※一部対応して
いない縫い仕様
があります。



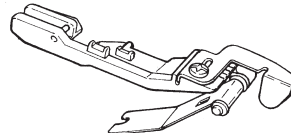
●コーディング押え

ドレスの裾、ブラウスの衿、
形くずれ防止に



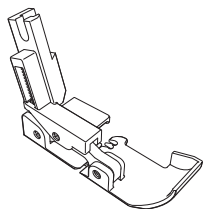
●ギャザリング押え

スカートやブラウスの肩の
ギャザリングに



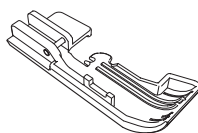
●トラクター押え

段部の乗り上
げ、下がりか
スムーズに



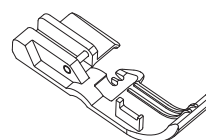
●透明押え

針落ちの位置が見えやす
くなります



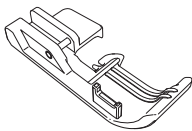
●ギャザー小回り押え

1枚の布地にギャザーを
寄せることができます。



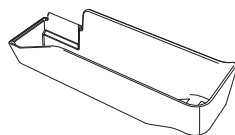
●小回り押え

カーブのハンドリングも
よりスムーズに



●布屑受け箱

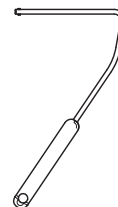
カットされた布地の切り屑
を集める受け箱です



●ひざ上げレバー

手を使わずに、膝
を使って押えの上
げ下げができますよ
うになります

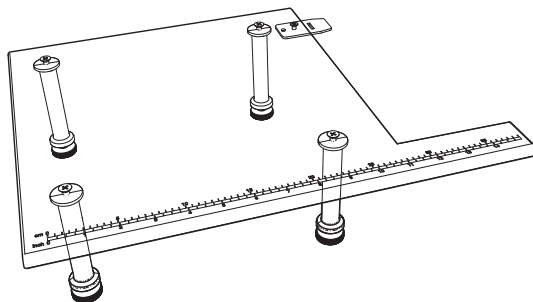
膝上げ式は押えが
6mmまで上がり
ます



●ワイドテーブル

作業台を広く使うために

下に置いたものを見えや
すくするため、透明に
なっています。



別売品のお求めは、お買い上げ販売店
にご相談ください。

故障かな・・・というときは

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつけになる前に、もう一度お確かめください。

現象	原因（理由）	処置方法	ページ
布地を送らない場合	① 押えの圧力が弱すぎる時。	・ 押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	10
針が折れる場合	① 針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。	・ 新しい針にとりかえます。	11
	② 針のとりつけ方が悪い時。	・ 正しくとりつけます。	11
	③ 布地を無理にひっぱった時。	・ 縫っているときは布端に手をそえるだけにします。	-
糸が切れる場合	① 糸のかけ方がまちがっている時。	・ 正しくかけなおします。	12～17
	② 針のとりつけ方が悪い時。	・ 正しくとりつけます。	11
目とびがする場合	① 針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。	・ 新しい針にとりかえます。	11
	② 針のとりつけ方が不完全な時。	・ 正しくとりつけます。	11
	③ 糸のかけ方がまちがっている時。	・ 正しくかけなおします。	12～17
縫い目の調子が悪い場合	① 糸調子皿に糸が入っていない時。	・ 正しく糸をかけなおします。	12～17
縫いシワがよる場合	① 糸のかけ方がまちがっていたり、必要以外の場所に糸がからんでいる時。	・ 正しくかけなおします。	12～17
	② 差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・ 目盛を正しく合わせます。	22
モーターの異常	① 雑音がする。 ② モーターが全然回らない。 ③ 火花が異常に大きい。	・ カーボンブラシを交換します。 (注) カーボンブラシの交換はお買い上げの販売店に依頼してください。	-
針穴に糸が通らない場合	① サイドカバーの ■ 印と、はずみ車の □ 印がずれている時。	・ はずみ車を回して、□ 印をサイドカバーの ■ 印に合わせます。	15, 16
上下ルーパーに糸が通らない場合	① はずみ車の固定を行っていない時。	・ 糸通し切替えレバーを上げ、はずみ車を回してはずみ車を固定します。	13, 14
	② 糸通し穴に糸が奥まで入っていない時。	・ 糸通し穴に糸を 1～2cm 挿入します。	13, 14
	③ 糸通し穴の手前で糸をたるませていない時。	・ 糸通し穴手前で糸をたるませます。	13, 14
	④ 糸がどこかに引っ掛かっている時。	・ 糸を引っ掛かっているところから外します。	-
	⑤ パイプの中にゴミがたまっている時。	・ 付属のルーパー糸通し具を使って糸を通し、パイプ内の糸くずを取り除きます。	17

上記の方法でも直らないときは、お買い上げ販売店にご相談ください。

仕様表

項目	仕様
使用糸数	3本、4本
使用針	左、右針ともHA×1 (SP) 11番、14番
かがり幅	2本針4本糸 4.5～7 mm 1本針3本糸 左針 4.5～7 mm 右針 2.5～5 mm (巻き縫い2 mm)
縫い目長さ量	0.7～4 mm (標準2.5 mm)
差動送り比	0.7～N (1)～2.0
押え上げ量	レバー式：6 mm / 8 mm
縫い速度	定格 1350 ± 150 針 / 分 (最大 1,500 針 / 分)
ミシンの大きさ (本体)	幅 350 × 奥行き 310 × 高さ 340 mm
重量 (本体)	10.4 kg
定格電圧 / 消費電力	100V / 135W 50 / 60Hz

製品改良のため、本体の色・デザイン・仕様・付属品など予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、お買い上げのお店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。
(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- このミシンは日本国内専用機種ですので、海外でのご使用はできません。また、海外での保証、アフターサービスは受けることができません。
- 保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げのお店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、保証書をご確認の上、お買い上げの販売店（ネット販売業者等を含む）、または下記のお客さま相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎ 0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日（月～金）9:00～12:00、13:00～17:00

Copyright © 2024 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話（ - - ）
購入年月日： 年 月 日